

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol.305

2022/9/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

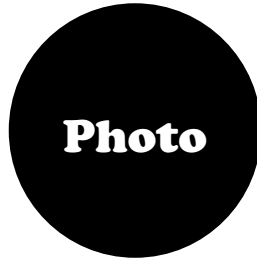
GREEN COLUMN

01. 不思議なホタルの行動

02. 古梅地区の軟石水路



今月の一枚



「樹液に群がる」

表紙写真・文／鬼丸和幸

山林で昆虫調査をしていた時、偶然にも、樹液に群がる昆虫たちを見つけました。湿地に生えていた、ヤチダモの木から出ている樹液に、多くのカブトムシやクワガタムシたちが集まっていました。「日中、どこに行けば、カブトムシやクワガタムシを捕まえられるか？」と聞かれたりしますが、日中、彼らの姿を見つけることは、なかなか難しいものです。しかし、もしも樹液が出ている木を見つけたら要注意！ その木を注意して見ていると、見つけることができるかもしれません。

Event. 今月のイベント

特別展「びほろ町4公園の草花図鑑」 ～10月23日(日)

ロビー展「すごい標本!すごい資料!」 ～10月5日(水)

美幌博物館でお宝を探せ! 9月1日(木)～9月30日(金)

博物館講座(芸術編)「まちの色で描く型染めパネル」 9月10日(土)

敬老の日 無料開館 9月19日(月)

プチ工房「やってみよう!草木染め」 9月23日(金), 9月24日(土)

Information. 参加者募集

博物館講座(芸術編)「まちの色で描く型染めパネル」

●9/10(土)10:00-12:30 ●美幌博物館1階 講座室 ●参加費500円, マスク, 必要な方は眼鏡 ●小島柚穂氏(染色作家) ●美幌博物館へ電話申込み(-9/9)。対象は中学生以上～一般(小学生以下は保護者同伴)。定員12名で締切。

プチ工房「やってみよう!草木染め」

●9/23(金), 24(土) ①10:00開始, ②14:00開始, 所要時間90分 ●美幌博物館1階 講座室 ●参加費300円, マスク ●城坂結実(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-9/22)。各回定員12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

博物館講座(自然編)「古梅の森でコケ観察」

●10/8(土)9:30-13:00 ●美幌町古梅地区(集合解散はマナビティセンター) ●参加費100円(保険代), 野外で活動できる服装, カップ, マスク, 上履き※少雨決行。荒天時は古梅地区で室内学習を行います。
●内田暁友氏(植物研究家) ●美幌博物館へ電話申込み(-10/6)。対象は中学生以上～一般(小学生以下は保護者同伴)。定員8名で締切。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 発熱がある, あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは, 内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により, 一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上, ご参加ください。

【駐車場のご案内】

10/31(月)まで、駐車場整備工事のため正面駐車場はご利用できません。
階段下の大駐車場をご利用ください。

今月の休館日

5日, 12日
20日, 26日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

不思議な ホタルの行動

写真・文／鬼丸和幸



時折、体が真っ赤に染まった赤とんぼを、見かける季節となりました。いよいよ秋ですね。

7～8月中旬にかけて、町内の山林で、ヘイケボタル生態調査・撮影を続けていました。今年は、天候不順な日が多く、ホタルが飛び交う姿が見られた日も、例年より少なかったように思えます。

観察していて、面白いことがわかってきました。観察していた場所は、山林の中に広がる湿地で（写真）、湿地内を未舗装の林道が通っており、この林道の周囲でホタルの姿をよく観察できます。

日が暮れて、周囲がだんだん暗くなり始めると、ホタルも活動を始めます。観察していると、あるパターンでホタルが行動していることがわかりました。【どこからともなく、1匹のホタルが光りながら飛んできて、林道地面

に降り立つ】⇒【そのホタルが発する光につられ、次々と他のホタルが光りながら飛んできては、林道地面に降り立つ】⇒【そのまま林道地面に留まって、光り続けるものもいれば、すぐに光りながら飛び立って、移動していくものもある】⇒【21:00を過ぎる頃には、林道地面に留まっているものも、次々に光りながら飛び去っていく】…さらに、林道地面に降り立ったものは、じっとしているわけではなく、地面の上を光りながら、長時間せわしく歩き回っていることも、わかってきました。

「なぜ、林道の地面に、わざわざ降りてくる？」…冷涼な北海道。林道地表面の土は、ホタルにとって、意外と温かく、活動（休憩？）しやすい場所なのかもしれません。

古梅地区の 軟石水路

写真／[左] 八重柏誠 新宮商行 ・文／八重柏誠



古梅地区の森の中には、軟石のブロックを積んで作った長さ848mの水路が残っています。現在は使われていないため、ところどころで崩れてしまっており、苔生^{こけむ}して静かに眠っているかのような状態です。

この水路は水力発電所に水を送るために作られたものです。発電所や水路を作った新宮商行は、1933（昭和8）年から1965（昭和40）年まで、古梅地区で製材事業を行なっていました。水力発電所は1938（昭和13）年に設置されたもので、美幌川と石切川の合流点付近で取水し、この水路を使って毎秒0.7m³の水を発電所に送ることができたといえます。発電所は45kWの発電能力を有していたと言われており、製材工場に加え、付近に併設されていたパルプ工場や職員住宅などの周辺施設にも、電力を供給していたといえます。

昨年、新宮商行から、水路が使われていた頃の写真の提供があり、当時の水路の様子を知ることができました。水路の周りは綺麗に整備されており、現在の様子からは想像もできない光景が広がっていました。水路は数万個にもおよぶ軟石のブロックを、手掘りによって切り出して作られたものです。近くに採石場があったとはいえ、便利な採掘機械や重機がなかった時代、石工が手掘りで軟石を切り出し、運び、積み上げていくことは大変な労力だったでしょう。軟石水路を見るたびに、手作業でこれだけのものを作り上げたのかと思うと、当時の人々の力強さを実感させられます。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・松田真莉子

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



先日、身内に不幸があり遠い親戚と会う機会がありました。そこで若くして亡くなった祖父が美幌農林学校を卒業していることを知りました。美幌に来て 10 年以上も経ってから知った意外な事実に驚きを隠せませんでした。(八重柏)